

全日本ホルスタイン共進会の歴史について (シリーズ2)

第13回全日本ホルスタイン共進会(北海道大会)が、10月8日(金)から11日(月)までの4日間安平町で開催されます。

シリーズ1では、第1回ホルスタイン種牛共進会と第2回全日本ホルスタイン共進会(以降全共という)の歴史と町内入賞牛の紹介をしました。今回は第3回共進会(昭和36年)の歴史と第1部名誉賞と1等1席を旧早来町が受賞。

第3回全日本ホルスタイン共進会(長野県) 参観者30万人

第3回全共は1961年(昭和36年)3月23日〜27日の5日間、長野県松本市において全国42都道府県から226頭(北海道16戸25頭)が出品。開期中には、皇太子殿下御夫妻(現天皇陛下御夫妻)のご台臨と高松宮殿下がご臨席され、アメリカ・カナダ・ドイツなど海外からの来客を迎え、参観者約30万人の中、

盛大に開催されました。

この共進会の審査報告文には「今日我が国の乳牛品種の大部分を占めるものは、ホルスタイン種及びその種系であります。これらの改良により、体格のすぐれた、健康で持久力に富み、繁殖力の大きい、そして、目的とする泌乳能力の高いものにすることは、我が国の将来の酪農業の発展のためには、極めて重要なこと」と記録されています。この言葉から、『世界に誇れる日本ホルスタイン牛』の基礎を築いてくれた先人たちの思いの一端をその文面からうかがうことができます。

【成績】

第1部名誉賞 山田一英(北海道早来町) マダムアーリンドパーク オームスピー

審査講評 発育良好、体積に富み、深みがあり、胸幅も充分で皮膚被毛の状態も良く、乳頭の配置及び乳腺の発育も良く、

四肢もまた丈夫であるが、肩がやや厚い難点がある



マダムアーリンドパーク オームスピー
1歳2ヵ月 早来町：山田一英

1等1席 山田 羔(北海道早来町) ダヴィドソン マダムトロムボーン

審査講評 体型、資質も良く、乳微も良好であるが、肩やや厚く、背線が幾分緩い



ダヴィドソン マダムトロムボーン
1歳3ヵ月 早来町：山田 羔

第2部1等1席 黒沢和雄(北海道札幌) 2席 福屋茂見(北海道恵庭)

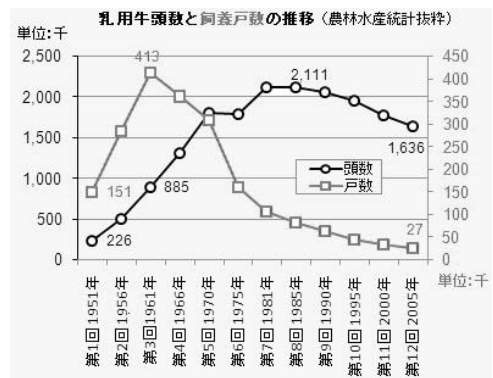
第3部1等1席 宇都宮潤(北海道厚別)、2席 町村啓貴(北海道江別)

当時の日本 「酪農：戸数・頭数」

下のグラフは第1回から第12回までの全共開催年ごとの「乳用牛頭数と飼養戸数の推移」と「一戸当り飼養頭数の推移」を表したものです。第3回全共の1961年(昭和36年)は、乳用牛頭数88万5千頭を数え、以降増加を続け第8回の1985年(昭和60年)には211万頭のピークを経て、第12回の2005年(平成17年)には164万頭弱の推移となつていきます。

乳牛飼養農家戸数については、昭和36年には41万3千戸を数え、2年後の昭和38年には41万6千戸を超えましたが、以降は減少を続け第12回の平成17年には2万6千戸台となりました。なお、1戸当り飼養頭数の推移では第1回の1.5頭から始まり第12回では62頭を数えるに至っています。

また、この年の生乳出荷量は185万tを超え、1頭当たり平均乳量は4,460kgでした。



第4回全日本ホルスタイン共進会(福島県) 参観者25万人

第4回全共は1966年(昭和41年)3月18日〜22日の5日間、福島県福島市で開催。

全国42都道府県から278頭(北海道17戸42頭)の出品があり、名誉総裁として秩父宮妃殿下を仰ぎ、常陸宮ご夫妻をお迎えし、参観者数延べ25万人を集め盛大に開催されました。

この時代は、改良の成果を具体的に見る(判断する)機